

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ関連経費の再試算について

1 再試算の背景

- ・これまで、国スポ・障スポ関係経費については、歳出削減や歳入確保に取り組みつつ、施設整備の進捗状況等に応じて、その都度、再試算を行ってきた。

<財政収支見通しにおける国スポ・障スポ関係経費（令和4年8月時点）>

(単位:億円)

開催経費	市町施設整備補助	競技力向上対策費	県立施設整備	人員体制整備	計
67	19	36	410	15	547

<歳出削減・歳入確保のこれまでの主な取組>

- 本県のスポーツ振興に必要な投資はしっかり行いつつ、既存施設の有効活用や、他府県の競技施設の活用を検討。
- 市町の競技施設の整備に、国の財源等を充当し、県の補助金を縮減。(約15億円削減)
- 募金・寄附による歳入確保を先催県より早期に取り組み。(約3億円確保)

- ・今年度、栃木県において、国体が3年ぶりに、障スポが4年ぶりに開催され、開催準備に関する様々な課題や本県で必要となる対応等が確認できた。
- ・また、栃木国体では天皇杯順位 20 位に終わり、今後、成年選手確保計画を基に更なる競技力向上の必要性が確認できた。

2 再試算の実施

栃木国体を含めた直近の先催県の状況等を踏まえた再試算を実施。

(1) 再試算の考え方

<開催経費>

- ・直近の先催県の開催経費の平均額を基に、本県の状況に応じて補正した額で試算。

<市町競技施設整備費補助金>

- ・本県の市町競技施設の整備状況を踏まえつつ、直近の先催県の補助金等も参考に試算。

<競技力向上対策費>

- ・成年選手確保計画のとりまとめ等を通じ明らかになった、現時点で想定される必要経費について試算。

(2) 再試算の結果

(単位:億円)

	開催経費	市町施設 整備補助	競技力向 上対策費	県立施設 整備	人員体制 整備	計
現 行	67	19	36	410	15	547
再試算後	104	26	39	409	15	593
差 額	+37	+7	+3	△1	±0	+46

<次の歳出削減の対策に取り組むことを前提に試算>

- 開閉会式の一般観客は、徒歩による来場を原則とし、シャトルバスに要する経費を縮減(約0.3億円減)
- ボート競技における競技用ボートの購入を他県と共同で行い、費用を縮減(約1億円減)
- プログラム、パンフレットの電子化に取り組み、印刷経費を縮減(約0.1億円減)
- 式典や競技用具を先催県から引継ぎ、新たな購入経費を削減(約0.2億円減)
- 馬術競技を県外開催としたことにより、競技にかかる総経費を縮減(約4億円減)

3 更なる経費節減等の取組

今後、更に、次の歳出削減、歳入確保の対策に取り組む。

- 開閉会式の規模を式典会場に適した簡素・効率的なものとし、仮設スタンドの設置費用や来場者のシャトルバスに要する経費を削減する。
- 前年の佐賀国スポと同じ施設を利用する馬術競技において、佐賀県と連携し、共通的な経費を削減する。
- 新たに創設した企業協賛制度で協賛金を獲得し、広報経費への充当に取り組む。
- 県市町合同の配宿センターの設置やバス輸送計画の導入等に取り組む、効率的な経費執行に取り組む。
- ふるさと選手確保や SHIGA アスリートナビを通じた民間企業採用選手の獲得に取り組む。
- 引き続き募金・寄附の確保に取り組むとともに、企業版ふるさと納税制度の活用や新たにクラウドファンディングの立ち上げにより更なる歳入の確保に取り組む。

4 増加額に対する財源対応

令和5年2月定例会議において、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会運営等基金に46億円を積み立てるための補正予算を上程したところ。このことにより、寄付金の積み立ても含めた令和4年度末の基金残高は約93.3億円となる見込み。

5 今後の再試算

令和5年度の鹿児島県、令和6年度の佐賀県の開催状況を検証し、必要に応じて再試算を実施する。